

# 兵庫県におけるオサムシの分布(1)\*

高 橋 寿 郎

## まえがき

冬季オサムシを掘って採集するという方法を教えて貰ったのは昭和14年(1939)1月15日、昆虫趣味の会神戸支部第一回例会として一王山・大阪谷の採集会が開催されその採集会に出席した時支部長の故関公一氏、幹事の故米谷正司氏の御両氏からその手ほどきを受けた時に始る(この時の様子は昆虫界, VII(65), 1939. 誌上に神戸支部報, No. 3として発表されており、当日関氏の撮影された越冬中のオサムシの写真は夫々昆虫界, VII(64), 1939., 採集と飼育, 1(3), 1939の表紙を飾っており御存知の方もいらっしゃるかと思われる)。その後現在に至る迄兵庫県下の甲虫類の調査に努力しており、オサムシの類も採集は続けてきたのであるがどちらかと云えば当地にはこの類を専門に研究しておられる方もいらっしゃる関係上それ程力を入れて採集したとも思われず採集品等も謹呈したのも多いので充分な標本が手許にない現状である。ただ京浜昆虫同好会から発行された“*Insect Magazine*” No. 76(オサムシ特集号, 1970)とか日浦勇氏等がまとめられた“近畿地方におけるオサムシの地理的分布(予報)”(大阪市立自然科学博物館報告, No. 25, 1971)等を見ても兵庫県下での記録が案外知られていないことがわかる。そこで筆者が現在迄に見られた文献を参考にしてまた今迄の調査結果と手許に保管されている資料を基にして一応兵庫県下におけるオサムシ類の分布状況を紹介しておきたいと考えた(オサムシの採集には他にトラップによる採集とか石起し法とか色々あるが筆者の場合ほとんど冬期採集が主体であるのでその点不十分かとも思うのだが——)。何分専門的な智識がないので或いは多くの誤りや脱落があるのではないかと心配している。出来得る限り注意してまとめたが尚御教示、御叱正を頂くことが出来れば幸である。

兵庫県下に産するオサムシ類は12種である。オサムシ類の分類に就いては多くの方々の研究があり夫々参考にはさせて頂いたが本文では主として中根博士の一連の研究(1952, 1962, 1977)に従うことにした。

おさむし科	Carabidae
おさむし亜科	Carabinae
おさむし族	Carabini
かたびろおさむし亜族	Calosomina
かたびろおさむし属	Calosoma Weber

## 1. *Calosoma maximowiczi* (Morowitz, 1863)

### クロカタビロオサムシ

本種は古く(1873)HiogoはBatesによって記録されている[10]\*\*。当時の兵庫は今の神戸市内のことであるがその後神戸市内での産は知らない。川西市笹部には多くいることが知られており、最近でも多く産する記録がある[239]。佐用郡大撫山には産する[457](1♀, 13-III-1976)。相生市三濃山では道を歩いていた1♂を採集した(18-V-1974)。揖保郡には古い記録がある[262]。養父郡関宮町鉢伏高原にも記録がある[1♀, 7-VII-1971, 日浦, 1971]。

兵庫県下での記録は以上のごとくで中央部から丹波、但馬地区、南部海岸線ぞいの記録がないのが気にかかるが全般に分布しているのではないだろうか。近畿地区でも案外記録が少ないので[日浦, 1971]、個体数の少ない種といえるように思う。本種は鱗類の幼虫を捕食することが良く知られておりその関係でクスギ林等の樹上で発見されることが多いし、翅が発達しているため燈火にも飛来することが知られている。

えぞかたびろおさむし属 *Campalita* Motschulsky

## 2. *Campalita chinese* (Kirby, 1818)

### エゾカタビロオサムシ

本種の方は兵庫県の中央部から西にかけての記録が全くない。まず淡路島から最近記録されている。三原郡西淡町[1♀, 10-VI-1968, 堀田, 1977]、洲本市中川原町[lex., 25-VI-1970, 堀田, 1978]。次に川西市見野大和[238]。宝塚市[Some Exp., IV-1974, 小島, 1976]。豊岡市鞆団地、上陰、立野[529]に記録がある。筆者自身は摩耶山ケーブル山上駅の電燈に来ていたのを採集しただけである(1♀, 21-VII-1955)。一般に前種同

\* 兵庫県甲虫相資料, 55.

\*\* 産地の記録で〔 〕の中のものゝ記録によるもので数字で表わしているものは筆者編“兵庫県産甲虫類に関する文献目録”(自刊, 1975)の文献番号である。( )の中ものは筆者の採集或いは寄贈を受けた標本で現在筆者の手許に保管しているものである。

様後翅が発達しているのでよく飛翔し燈火に飛来するので採集されている、あまり森林的な種でないようなので(中根博士も畑作地によく見られると述べておられる)、もっと県下には広く記録があって良いと思われる。最近倉本康司氏の御好意で水上郡で採集された標本の在恵手に預った、水上郡山南町若林(1♀, VIII-1972, K.

Kuramoto leg., 1♂, VIII-1972, K. Fujiwara leg.).

おさむし亜族 Carabina

おさむし属 Carabus Linné

せあかおさむし亜属 Hemicarabus Géhin

### 3. Carabus (Hemicarabus) tuberculosus (Dejean et Bois duval, 1829) セアカオサムシ

本種が六甲山では割合いいという記録は古くある[316, 449]。筆者自身も六甲山上での夜間採集の際、道路沿いに電燈が照している側溝を歩行中の1♂を採集した経験がある(28-VII-1939)。ただし之等は全部戦前での記録であり戦後六甲山にて本種を採集したという記録も知らなければ採集したこともない。

最近では次のような記録が県下にあるが大変個体数の少ない種である。

宝塚市(1♀, 10-IV-1974, 小島, 1976), 神崎郡神崎町[69], 美方郡兎和野(1♂, 29-VII-1976, 山本勝也採集), 鉢伏山(1♂, 6-VIII-1974, 倉本康司採集), 鉢伏高原(1♂, 10-VII-1975, 藤原均採集)。

あきたくろながおさむし亜属 Euleptocarabus Nakane

### 4. Carabus (Euleptocarabus) porrecticollis kansaiensis Nakane, 1960.

ホソアオクロナガオサムシ

本種は県下では分布が限定されているように思われる多紀郡畑[164, 岸田, 辻, 1975], 城崎郡竹野町羽入[529]に産して西の方佐用郡迄の間に産地として朝来郡和田山町竹田で採集出来たのみである(1♂, 1-IV-1978 美方郡扇ノ山には記録がある[482]。宍粟郡音水でも確か本種と思われるものを採集したと思うが標本が現在手許がなく記録出来ないのが残念である。とに角佐用郡大撫山には大変多くいる[457](4♂, 5♀, 15-III-1975, 34♂, 52♀, 6-XII-1975, 52♂, 50♀, 13-III-1976, 21♂, 28♀, 25-IV-1976, 13♂, 12♀, 20-XI-1976, 19♂, 19♀, 11-III-1977, 1♂, 2♀, 2-V-1978)。越冬は単独でなく3~5匹かたまっているケースが割合多い。

おおさむし亜属 Ohomopterus Reitter

### 5. Carabus (Ohomopterus) dehaanii Chaudoir, 1848. オオオサムシ

まず兵庫県下における産出状況の記録を東から西へ、南から北へという順に記して見る。洲本市先山[12♂, 12♀, 26-XII-1968, 桂, 1971., 90., lex., 11-VIII-1965,

lex., 8-VIII-1970, 3exs., 22-VII-1976, 堀田, 1976](1♂, 22-VII-1975, Hotta leg., 2♂, 2♀, 9-III-1978), 三原郡鮎屋[90], 諭鶴羽山[3♂, 3♀, 1-III-1971, 桂, 1971, 90., lex., 22-VII-1975, 堀田, 1978], 竹原ダム上~柏原山[25♂, 27♀, 2-III-1971, 桂, 1971]。西宮市北部有馬地区, 六甲山地[92]。

神戸市[224], 御影[316], 六甲山(lex., 27-VII-1939), 一王山(lex., 15-I-1938, 3♂, 4♀, 22-IV-1978), 摩耶山(lex., 3-VI-1938), 保久良山(1♂, 1-V-1975, 1♀, 30-XII-1975), 再度山(lex., 30-V-1938), 山の街(3♂, 3♀, 23-III-1975, 5♂, 8♀, 30-III-1975, 4♂, 5♀, 24-XI-1975, 6♂, 6♀, 17-I-1976, 5♂, 9♂, 6-III-1976, 17♂, 6♀, 13-XI-1976, 4♂, 2♀, 13-II-1977, 11♂, 13♀, 27-II-1977, 7♂, 13♀, 20-III-1977, 4♂, 4♀, 15-X-1977, 5♂, 2♀, 15-I-1978, 1♂, 2♀, 18-III-1978), 藍那(4♂, 7♀, 14-XII-1975, 3♂, 4♀, 2-I-1976, 6♂, 12♀, 3-X-1976), 北区有馬(1♂, 31-XII-1975), カタ越崎[1♂, 29-XII-1972, 富永他, 1973], 有馬町多聞寺[8♂, 8♀, 29-XII-1972, 富永他, 1973], 有馬町古々山峠[1♂, 29-XII-1972, 富永他, 1973], 山田町餓鬼ノ揖[2♂, 1♀, 29-XII-1972, 富永他, 1973], 淡河町南中池[5♂, 6♀, 29-XII-1972, 富永他, 1973], 水上郡[514], 出石郡出石町[360], 多可郡三谷(1♂, 19-IV-1975), 神崎郡笠形山(1♂, 6-XI-1976), 朝来郡和田山町竹田(1♂, 1-IV-1978), 相生市三濃山(1♂, 7-V-1972, 1♂, 2♀, 18-V-1974, 1♀, 8-VI-1974, 4♂, 4♀, 10-IV-1976), 揖保郡新宮町下野[457], 佐用郡船越山[457], 宍粟郡山崎町, 上町葛根[457], 音水(1♂, 11-VI-1972)。

以上のごとく県下に広く分布している種と考えられるのであるが但馬地区での記録が全く無い、氷ノ山, 扇ノ山あたりはどうか、音水では採集出来ているので分布しているのではないだろうか。日本海側での記録が無いのでこの辺を調査しなくてはならないと考えている。

本種の産出状況は近い所でもいる所といない所と割合ははっきりしているようである。

例えば佐用郡の大撫山にはヤコンオサムシは非常に多くいるのにこの種が見られない、赤穂郡上郡もヤコンオサムシはいるが本種がいない、ところが両地区に近い相生市三濃山にはどちらも産する。

筆者の住居のすぐそば鳥原貯水池附近はヤコンオサムシは大変多くいるが本種が見られない、ここから10km位離れている藍那, 山の街には両者を産する、このように近い所でも混棲地とそうでない所があるようである。中根博士が記録されたように本種は越冬に際して頭部を外方にむけている。(11-V-1978)